

東日本大震災 新潟民医連支援ニュース

2011年3月19日発 NO.1

新潟民医連対策本部 電話 025-224-4073

Email: miniren@niigata-min.or.jp

大震災より一週間、新潟民医連、懸命な支援活動



初動活動では11日19:21下越病院DMAT(末武医師)が岩手盛岡から仙台医療センターへ(11~13日)、五十嵐会長チーム(12日)が福島郡山から小名浜へ現状調査、ながおか医師協高橋専務チーム(14日)も福島須賀川から福島市へ。16日には五十嵐会長に看護師・薬剤師のチームが支援拠点の宮城民医連坂総合病院へ(出発の写真下)

19日からの三連休は医療支援4チームが出発

ながおか医師協かんだ診療所の星野所長チーム、新潟勤医協ときわ診療所の畠山所長チームが舟江診療所高井看護師長はじめ看護師、事務、放射線技師、トレーナーなど12名が車三台で宮城民医連坂総合病院へ。もう一台、メディカルプランの川俣常務を先頭に薬剤師4人が宮城つばさ薬局へ向かいました。それぞれ、緊急車両のステッカーを警察から取得し、寝袋持参でいざ出発。

メディカルプラン山岸社長、単身で医

薬品届け 全日本より要請のあった医薬品を満載し、山岸社長は一人で宮城民医連坂総合病院の隣接「つばさ薬局」へ二往復しています。現地では疲れた薬剤師の代わりも務めています。



穂波の里「21・老福連」加盟施設共同

で物資支援 ◇穂波の里も加盟する「21・老福連」では、新潟県では「穂波の里」、福島県は郡山と、福島市の施設(両施設とも民医連加盟)が中継地点となり、物資の支援を行っています。新潟は山形経由の中継点。16日、物資支援で訪れた「宮城野の里」(片道8時間かかった)は入居者・職員は無事で電気水道はストップ、生活物資は不足とのこと。◇いわき市より避難してこられた方が今後、穂波のサービス利用の予定です。◇17日、18日も職員が山形・福島郡山の施設へ物資搬送。小国峠は大雪、圧雪。夜中の12時に帰ってきた。

本格的な生活支援はこれからです。福島から新潟へ避難してこられた方々の支援も大きな課題です。中長期の支援活動を確立し、新潟民医連一丸となって頑張りましょう。

募金もよろしくお願いします。